

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

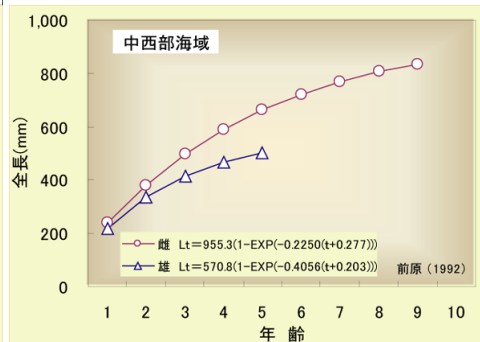
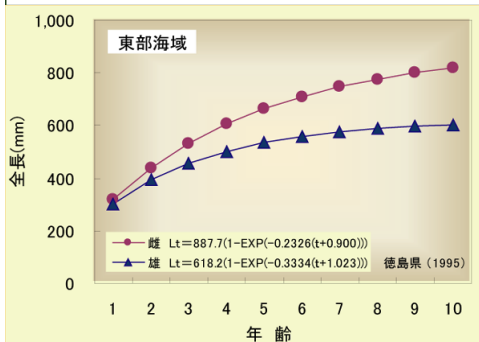
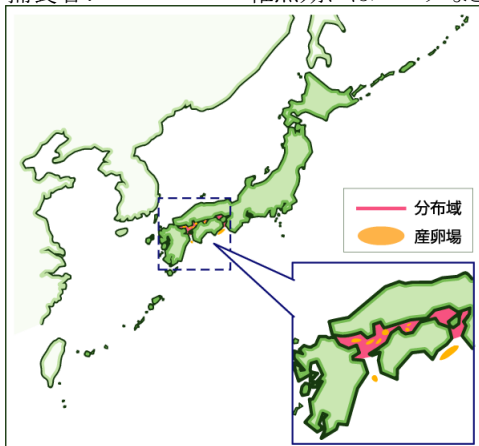
系群名 瀬戸内海系群

担当水研 瀬戸内海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 15歳程度
成熟開始年齢: 3歳(雌は一部2歳、雄は一部1～2歳)
産卵期・産卵場: 東部海域は2～5月、中西部海域は3～6月
索餌期・索餌場: ほぼ周年、瀬戸内海全域、紀伊水道、豊後水道及び四国の太平洋沿岸域
食性: 着底後の稚魚は主にアミ類、仔魚等、成長に伴い魚食性に移行
捕食者: 稚魚期にはマゴチなどの大型魚

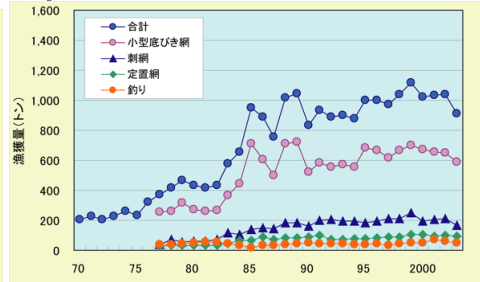
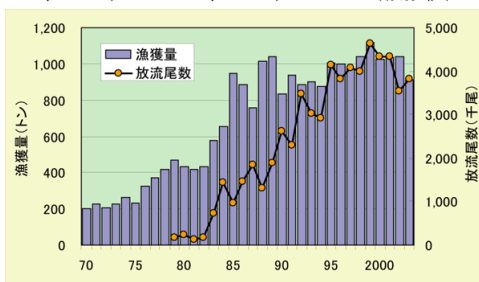


漁業の特徴

主に小型底びき網、刺網、定置網、釣によって、秋に未成魚、冬～春季に成魚を主に漁獲している。2003年では漁獲量の65%が小型底びき網漁業によるもので、小型底びき網では小型魚も多く漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量は1970年代までは100～400トンで推移したが、1980年代から増加し始め、1988年には1,000トンに達し、それ以降は1,000トン前後を推移している。1999年に過去最高の1,118トン記録したが、2000年以後は減少傾向にあり、2003年は912トン、2004年は901トン(概数値)であった。

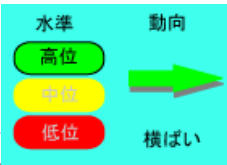


資源評価法

離別漁獲統計、小型底びき網漁業のCPUEの経年変化を解析し、これに主要県の全長測定結果、および燧灘沿岸におけるソリネットを用いた着底稚魚密度調査結果などを加味して資源評価を行った。

資源状態

1965年以降の漁獲量の推移から、資源水準は高位であり、直近5カ年の小型底びき網漁業のCPUEの推移から動向は横ばいと判断した。愛媛県における小型底びき網漁業等によるヒラメの最近の全長組成では、中予地方において漁獲物がやや小型化している傾向が認められた。また、燧灘沿岸における2004年の6月の稚魚の着底量調査における最大の密度は、愛媛県河原津では2003年とほぼ同レベルであったが、香川県大浜では2003年を大幅に下回った。



管理方策

資源が高水準であるため、現在の資源水準を維持することを管理目標とした。ABC算定のための基本規則2－1)に基づきABCを算定した。1999～2003年のCPUEの年間の変化率は－2～－1％程度だが、漁獲量の暫定値と確定値のずれの可能性、2004年のCPUEが不明な点等を勘案して、直近2年間の平均漁獲量に0.95を掛けた860トン(2006年におけるABClimit)とした。資源は高位で横ばい傾向にあるが、中予地方における漁獲物の若干の小型化、香川県の加入量調査の数値が低い等の懸念材料があることから、 $\alpha = 0.8$ とし、ABCtarget= 690トンとした。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	860トン	0.95Cave2-yr	－	－
ABCtarget	690トン	0.8・0.95Cave2-yr	－	－

資源評価のまとめ

- 漁獲量及び小型底びき網漁業のCPUEの推移をもとに、資源状態は高位で横ばい傾向と判断した
- 漁獲物の若干の小型化、香川県の加入量調査の数値が低い等の懸念材料がある

管理方策のまとめ

- 現在の資源水準を維持することが管理目標
- 小型魚の再放流の徹底や市場での体長制限が望まれる
- 資源の状況に応じて種苗放流を継続することが妥当
- 貧血症のモニタリングが必要

資源評価は毎年更新されます。
2005.12.8更新